

# 川棚民報

2024年7・8月号外  
発行 日本共産党川棚支部

定例川棚町議会の報告を紹介します  
電話 090-9790-5564



日本共産党川棚町議会議員

## 辻きよと 町議会報告

### 石木ダム建設

# 一度立ち止まって 考えてはどうか 辻きよと町議、町長に質問

日本共産党の辻きよと町議は、6月定例議会にて、石木ダム建設について  
認知症対策について コロナ後遺症対策について一般質問をしました。

町民は石木ダム建設の行方に強い関心を持って見守っています。  
佐世保に水が必要だから石木ダムと言われるが、佐世保

は逼迫した状態ではなく、川の住民が納得できる理由も示されていません。佐世保の人口は、毎年2000人も減り、水は近くの、川棚川より

大きな佐々川からとればいいとの意見もあります。  
13世帯約50名の方々が暮らす自然豊かな土地は、川棚町の貴重な財産ではないのか、これを水の底に沈めていいのか。一度立ち止まって石木ダム建設考えてはどうか、と辻きよと町議は、町長に質問しました。

町長は、今年3月23日に川棚町公会堂で行われた、清流を守る未来を守る集会があったのはご存じですか。その集会でダムの専門の方が講演で話された内容は、豪雨の場合川棚川が溢れなくても、石木ダムの方が先に満杯になり、川棚川へ放流となり危険が増しダムの効果は減少する。

石木ダムで、避難する時間が確保できるということには

町長 川棚川水系河川整備計画によりまずと、川棚川の想定氾濫区域内の人口、資産の状況、県内のバランス及びこれまでの水害を考慮して石木川合流地点を境に上流を30年に一度、下流を100年に一度の降雨による流量の安全な流下を図りますと記載されていますのでそのように理解しています。

町長 集会は、案内があったので知っている。講演につきましては、先生方が持論を述べられるわけですが、専門の先生方も、ダム不要論とか、あるいはダム必要論などその講演を聞いた方が判断されることだと思っております。

す。」と話されました。  
洪水が起る確率が山道橋を境に上流は、30年に一度、下流は、100年に一度、この区分けの根拠は何か、町長はどのように理解されているのか、尋ねます。

石木ダムができることによって、洪水の被害が増すのでは、本末転倒ではないか、町長の決断一つでまだ間に合います。石木ダム工事中止を宣言してはどうか。

ならないのではないかと。町長は、この指摘どう考えますか、お尋ねします。洪水対策に石木ダムが役に立たないのであれば、作る意味はないのではないかと。



「石木ダム建設絶対反対」抗議の座り込みが続くテント

辻 町長は、2023年の6月定例会での答弁で、「本町におきましては、利水より治水の方が重要だと考えております。石木ダムが建設されることによつて、おおむね100年に一度程度の大雨には対処できると伺っております。

辻 町長は、今年3月23日に川棚町公会堂で行われた、清流を守る未来を守る集会があったのはご存じですか。その集会でダムの専門の方が講演で話された内容は、豪雨の場合川棚川が溢れなくても、石木ダムの方が先に満杯になり、川棚川へ放流となり危険が増しダムの効果は減少する。

石木ダムで、避難する時間が確保できるということには

豪雨の場合川棚川が溢れなくても、石木ダムの  
方が先に満杯になり、川棚川へ放流となり危険  
が増しダムの効果は減少する

(2面につづく)